

ト ア エ ス コ ー ト ガ イ ド

(視覚障害者誘導用標示)

施 工 要 領 書

株 式 会 社 ト ウ ペ

—目 次—

1. はじめに
2. トアエスコートガイドに使用する材料の荷姿
3. トアエスコートガイドに使用する材料の特徴
4. トアエスコートガイド寸法及び形状
5. トアエスコートボンドの取扱い上の注意、保管上の注意
6. トアエスコートガイドの使用道具類
7. トアエスコートガイドのフローチャート
8. トアエスコートガイドの下地調整と施工方法

1. はじめに

トアエスコートガイドは、視覚障害者が歩道を通行する際の手引きとなり、安心して通行するための手助けとして開発されたものです。

突起の形状・寸法及びその配列は 2001 年 9 月に制定された JIS T 9251 に合致し視覚障害者が認知しやすく、切替りがわかりやすいものとして通行の安全を確保するために造られたものです。

また、姉妹品のトアエスコートゾーンと併用することにより歩道及び横断歩道の安全がトータルで確保できます。

2. トアエスコートガイドに使用する材料の荷姿

トアエスコートガイドに使用する材料には次の 5 種類があります。

(ア) トアエスコートガイド T 新 (点状突起)	20 枚
(イ) トアエスコートガイド S 新 (線状突起)	20 枚
(ウ) トアエスコートボンド A(主剤) 黄 NL	10 kg
(エ) トアエスコートボンド A(主剤) 目止用	10 kg
(オ) トアエスコートボンド B(硬化剤)粉	1 kg
(カ) コンクリート舗装用プライマー	
・ トアカラーライナーコンクリート用プライマー A(主剤)	12.8 kg
・ トアカラーライナーコンクリート用プライマー B(硬化剤)	3.2 kg

3. トアエスコートガイドに使用する材料の特徴

3-1 トアエスコートガイド

トアエスコートガイドは、梯子状にリブを取り付けた突起体成型物です。材質には ABS 樹脂を使用したもので、耐久性・耐衝撃性・耐磨耗性等に優れていてトアエスコートボンド（下塗用塗料）との密着性も良好なものです。

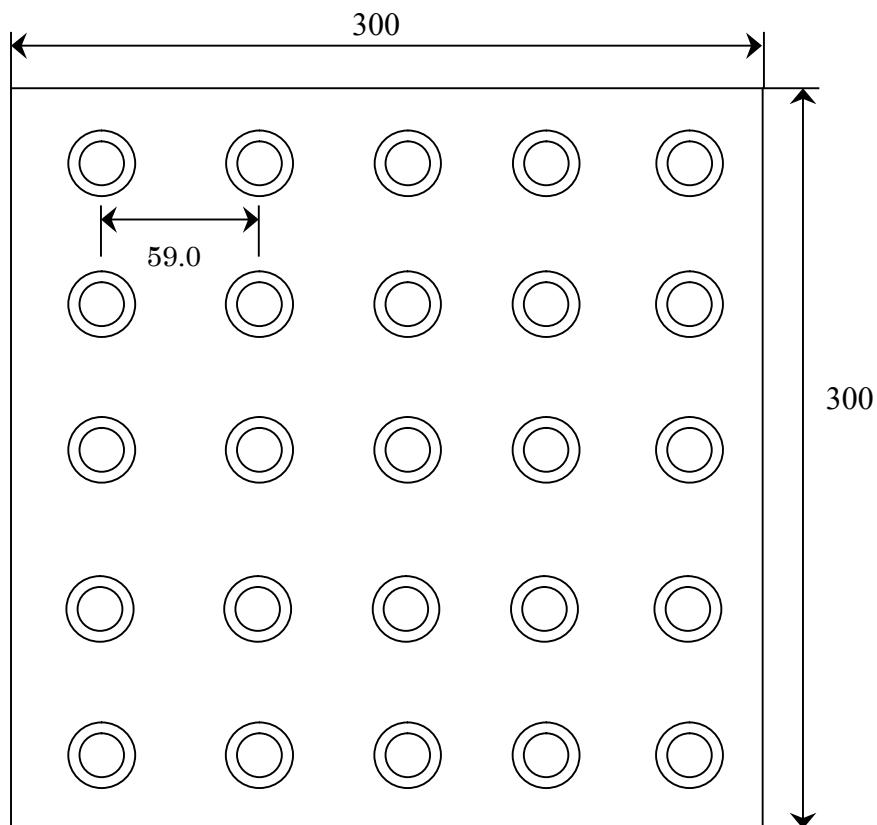
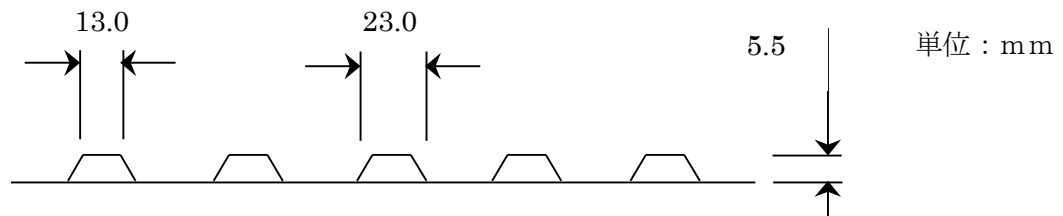
3-2 トアエスコートボンド

トアエスコートボンドは、トアエスコートガイドを設置する為の下塗用塗料です。2 液反応型アクリル樹脂タイプの塗料で、塗膜を硬化させるためには硬化剤が必要となります。外気温（路面温度）に応じて使用する硬化剤量・促進剤等を組み合わせることにより、シーズン（春～冬）を問わず、ほぼ一定の乾燥性を得るように設計されています。

塗装方法は特殊なアプリケーションター、コテ等を使用し、簡単に施工ができます。

4. トアエスコートガイド 寸法及び形状

4-1 トアエスコートガイドT 新（点状突起）



仕 様

突 起 ： ABS

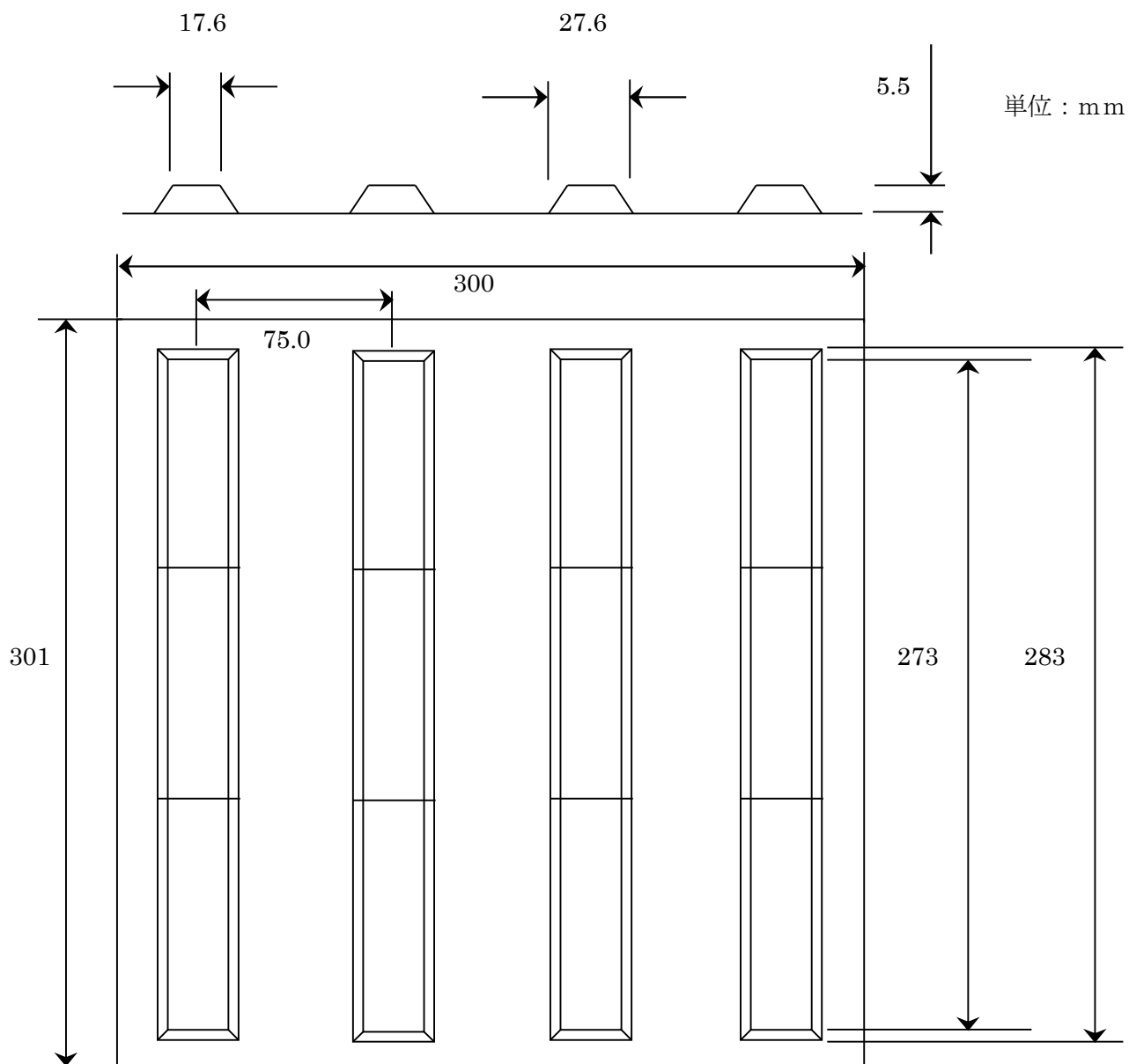
突起数 ： 5×5個（ハーフドーム型）

突起サイズ ： 上円直径 13.0mm

下円直径 23.0mm

突起高さ 5.5mm

4-2 トアエスコートガイドS 新（線状突起）



仕 様

突 起 : ABS

突起数 : 4列(ハーフドーム型)

突起サイズ : 上部幅 17.6mm

下部幅 27.6mm

突起高さ 5.5mm

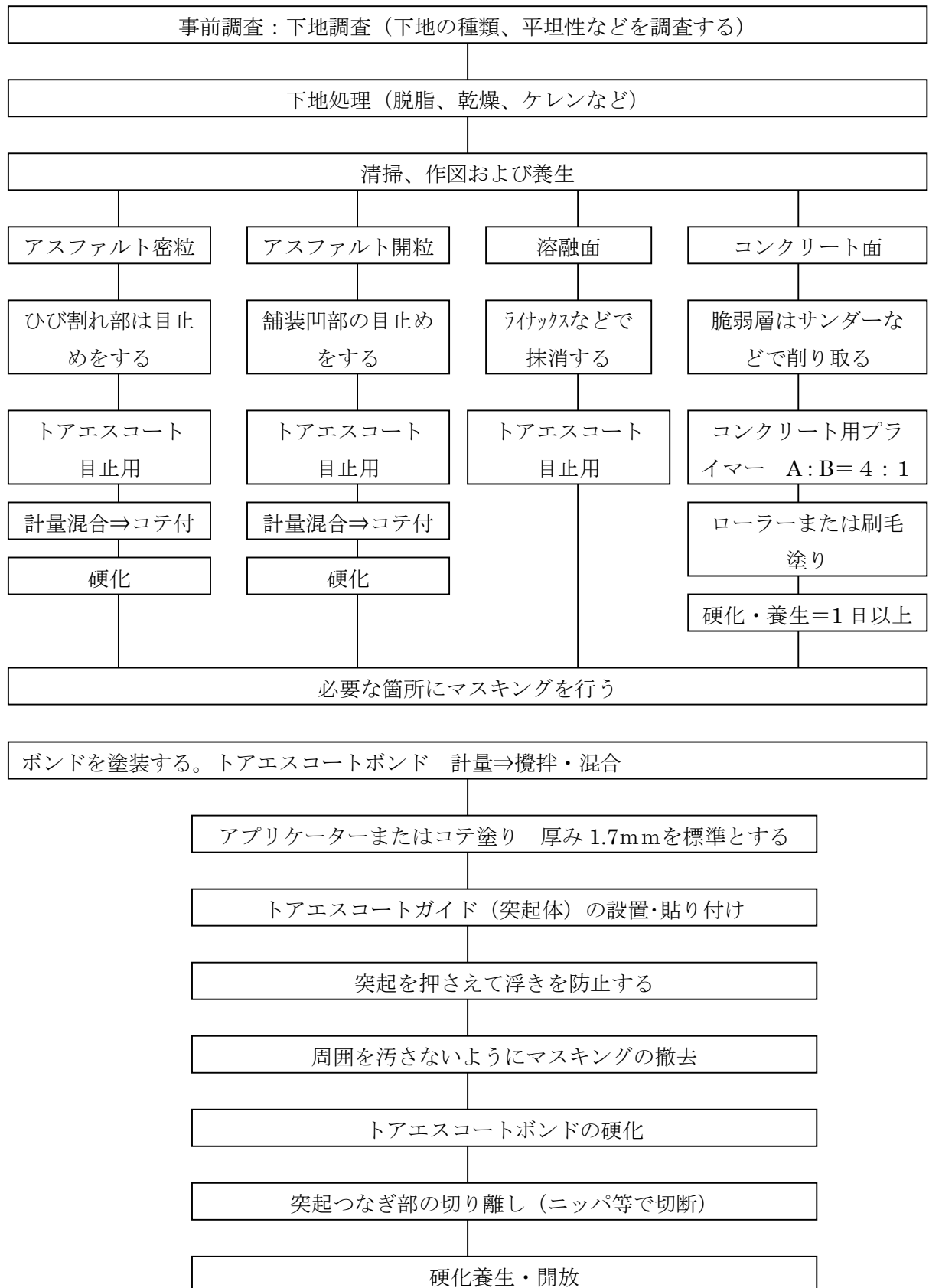
5. トアエスコートボンドの取扱い上の注意、保管上の注意

- ①トアエスコートボンドA（主剤）は、消防法第4類危険物第1石油類に、トアエスコートボンドB（硬化剤）粉は、消防法の分類は非危険物ですが、施工時は、「火気厳禁」扱いとしてください。
- ②トアエスコートボンドが直接皮膚に接触しないようにゴム手袋を着用してください。皮膚についた場合は石鹼水でよく洗ってください。目に入った場合は、15分以上洗眼して医師の診断を受けてください。
- ③（硬化剤）粉は、ベンゾイルパーオキシドを30%含む安定化した白色粉末ですが、保管には火気や直射日光を避け、冷暗所に保管してください。
- ④トアエスコートボンドA（主剤）は、よく攪拌してから使用してください。貯蔵中に上層に分離した成分を均一にするためです。不均一ですと部分的な硬化不良の原因になります。
- ⑤トアエスコートボンドは、25℃以上での長期の貯蔵は避けてください。通常での貯蔵期限は6ヶ月です。
- ⑥全材料は水分を嫌います。保管中、調合時の水分を避けてください。
- ⑦施工した後の残材料は、発熱硬化反応が完全に完了したことを確認し、樹脂可燃物として適切に廃棄処分してください。
- ⑧粘度調整のためのシンナー類の混合は硬化不良となるので混ぜないで下さい。
- ⑨アプリケーション、コテなどは速やかに洗浄してください。洗浄後はウエスなどで入念に拭取ってください。溶剤が残り材料に混入すると硬化不良の原因になります。
- ⑩路面温度45℃以上の場合は工事を中止してください。

6. トアエスコートガイドの使用道具類

- 1 発電機
- 2 コードリール
- 3 夜間用照明、ライト
- 4 サンダー・グラインダー
- 5 ポリッシャー・サンドペーパー
- 6 ライナックス
- 7 電気掃除機
- 8 デッキブラシ
- 9 かなづち、タガネ
- 10 皮スキ
- 11 自在ほうき
- 12 ガスバーナー
- 13 モップ・絞り機
- 14 作図道具
- 15 表面温度計・ディプスゲージ（高さ測定器）
- 16 養生シート・マスキング
- 17 ウェス
- 18 ブルーシート
- 19 布粘着テープ
- 20 カッターナイフ
- 21 ポリ容器
- 22 ポリカップ 100ml、300ml、500ml、1000ml
- 23 秤
- 24 硬化剤秤り ポリスポイト、シロップひしゃく
- 25 攪拌機、ミキサー、マーゼル
- 26 ドリルドライバー、少量攪拌用
- 27 金コテ
- 28 アプリケーター
- 29 アプリケーター洗浄用バット
- 30 洗浄道具、刷毛など、
- 31 洗浄用溶剤
- 32 空缶、空袋、ごみ入れ
- 33 プラスチックスポンジ
- 34 押さえ用鉄板など

7. トアエスコートガイドのフローチャート



8. トアエスコートガイドの下地調整と施工方法

作業分担

速やかに作業を進めることが重要です。工事に先立って、各人の作業分担を決め、事前に練習をして、作業内容を把握しておいてください。

1. 線出しを行い、下地を調整します。

1-1 アスファルト面

1-1-1 開粒アスファルト：マスキングをし、必要な個所を全面目止します。

1-1-2 密粒アスファルト：ひび割れなどは目止め材で下地調整をします。

1-2 コンクリート面

1-2-1 新設コンクリート：3週間程度の養生後、表面の脆弱層をサンダーなどの電動工具で取り除きコンクリート用プライマーを混合しローラーなどで塗布をします。

(5℃以下では硬化しないので、施工しないで下さい)

主剤：硬化剤の配合比率は遵守してください。

使用材料	配合比	塗布量
トアカラーライナーコンクリート用プライマー A (主剤)	4	100～150g/m ²
トアカラーライナーコンクリート用プライマー B (硬化剤)	1	
トアライナー P 用シンナー	0～1	

プライマーの養生

路面温度により養生時間が異なります。

	夏期	冬期
養生時間	1日～7日	2日～7日

但し、表面乾燥は0.5～2hで開放可能です。

1-2-2 既設コンクリート：表面の脆弱層をサンダーなどの電動工具で取り除きコンクリート用プライマーを混合しローラーなどで塗布をします。

1-3 溶融面

1-3-1 舗装面と溶融面との段差を少なくするため、また十分な付着強度を確保するために溶融面はライナックスなどで、抹消してください。抹消後、目止めを行ってください。

1-4 施工不可能な下地

1-4-1 簡易舗装材などで、部分補修を行ったアスファルト面。転圧が充分でないアスファルトはボンドの浮き、剥離の原因となることがあります。

1-5 その他の下地

天然石、特殊舗装、その他の下地では事前に付着性の確認が必要です。

特に、エポキシ系舗装材及び石油樹脂系舗装材は要注意です。

2. 必要箇所にマスキングを行い、目止め処理をします。

トアエスコート目止材での面出し（既設密粒の場合）

品種	配合	塗布量（目安）
トアエスコートボンド目止用A（主剤）	100	0.182 k g / 30 c m × 30 c m
トアエスコートボンドB（硬化剤）粉	*1-1.5	

主剤と硬化剤の混合攪拌はドリルトライバーなどの機械を用いて十分に攪拌してください。

（目安として1分程度） コテなどで平滑に仕上げます。

*Bの量は路面温度により異なります。（*は23℃の例です。）

（必要に応じてマスキングを撤去し、再度マスキングを行います。）

3. トアエスコートガイドの準備

4. トアエスコートボンドの塗布

使用材料	配合	塗布量（目安）
トアエスコートボンドA（主剤）黄NL	100	0.370 k g / 30 c m × 30 c m
トアエスコートボンドB（硬化剤）粉	*1-1.5	

主剤と硬化剤の混合攪拌はドリルトライバーなどの機械を用いてください。

*Bの量は路面温度により異なります。（*は23℃の例です。）

アプリケーションター、コテなどで、膜厚1.7mm程度を均一に仕上げてください。

ボンドは速乾性ですので、手早く貼り付け下さい。

突起の高さが求められますので、ボンドを過度に厚く塗って突起が埋まりこむことは避けてください。

仕上がり高さは5mmを確保してください。

5. トアエスコートガイドの貼付

ボンド塗布直後に貼り付け、直後に指先で押さえて浮きの無いことを確認した上で、おもりを置いて硬化させます。おもりは角材や鉄板を用います。

6. マスキングの除去

ボンドの硬化が始まる前に、周囲を汚さないようにマスキングを除去します。

7. つなぎの除去

硬化後、つなぎをプラスチックニップ等で切る。

8. 出来型管理

成型品は規格に合致したものをご提供いたしますが、高さ、塗り幅は現場での

管理となります。以下の項目を管理してください。

管理項目

突起部の高さ：5～6mm

トアエスコートボンド・硬化剤の添加量

各温度におけるトアエスコートボンドの硬化剤・硬化促進剤の必要量は下記の通りです。硬化剤の添加量は温度に応じた適正量があります。可使時間を延ばす目的で硬化剤を少なくすると、硬化不良がおこり、また、硬化時間を早める目的で硬化剤を多くすると、硬化が早くなり、トアエスコートガイドとの密着不良が生じます。

(%)

	トアエスコートボンド			
	目止用A（主剤）		ボンドA（主剤）黄NL	
路面温度	（硬化剤）粉		（硬化剤）粉	
30℃	0.5-1.0		0.5-1.0	
23℃	1.0-1.5		1.0-1.5	
10℃	1.5-2.0		1.5-2.0	
5℃	1.5-2.5		1.5-2.5	

・路面温度（下地温度）が45℃を超える場合は施工を避けてください。

・硬化剤の添加量は必ず0.5%以上でご使用ください。0.5%以下では硬化にバラツキの生じる場合があります。